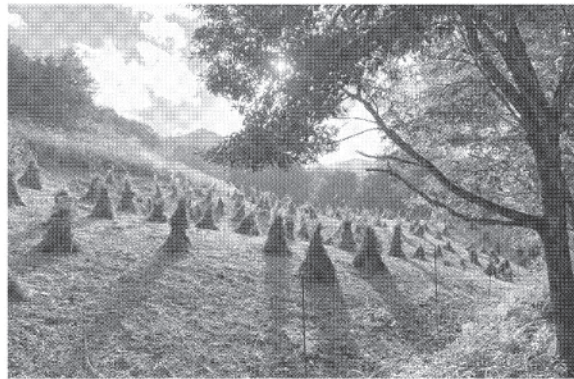


土呂部の草原 霧降高原キスゲ平

茅ボッチが並ぶ土呂部の草原Ⅱ2019年秋(日光茅ボッチの会提供)



日光・期待高まる関係者 「再認識のきっかけに」

同協議会は2016年に発足。県内で加盟する市町はないが、現在は34市町村で構成している。草原が国土の1%ほどに減少する一方、観光資源としての魅力や希少動植物の生息地としても見直されていることから、「100選」の選定を環境省に要望するとともに選定作業を始めた。

選定の基準は、生物多様性が保全されていることや、維持する仕組み、価値を享受する仕組みがあるかなど。23年春ごろには第2回選定地域を決める。

【日光】全国草原の里市町村連絡協議会(事務局・静岡県東伊豆町)は7日までに、市内の「土呂部の草原」「霧降高原キスゲ平」を、「未来に残したい草原の里100選」に選んだと発表した。第1回選定地域として全国の34カ所が選ばれた。土呂部で草原の保全活動が続ける日光茅ボッチの会は「草原が減少する中で、草原の意義や価値を再認識するきっかけになれば」と喜んでいる。

(大塚順一)

残したい草原 全国100選



115

設 問

【1】「未来に残したい草原の里100選」に日光市のどこが選ばれましたか。記事の中から2カ所、答えましょう。

【2】草原が国土の1%ほどに減少する一方、どのような点が見直されているのでしょうか。

【3】「未来に残したい草原の里100選」選定の基準としては、どのようなものが挙げられているのでしょうか。

【4】100選に選ばれた日光市の2カ所の草原では、どんな希少な植物を挙げていますか。四つ書き抜きましょう。

【5】全国草原の里市町村連絡協議会では、100選活動をどのように生かしていきたいと考えていますか。

刈り取ったススキなどを乾燥させる茅ボッチで知られる「土呂部の草原」は、クロベイタヤ、シバタカエデ、モメンヅルなど、県内では同地域でしか確認できない植物が自生。茅ボッチの会によると、国や県のレッドリストで「希少種」とされる植物31種、昆虫12種が確認されている。

一方、「霧降高原キスゲ平」は、全国有数のニッコウキスゲの群生地。最盛期には40万株以上が群生していたが、近年はシカの食害で20万株程度にまで減少。13年に市がリフト事業所の跡地を園地として整備し、保全に力を入れている。

同協議会は地域の選定作業のほか、シンポジウムや全国の草原の名鑑作成・公表などを予定。事務局担当者は「100選が草原を守る団体のPR、保全活動に生かせれば」と話した。

小学校高学年向け 年 組